

## 30-1032

### 薬学生早期病院体験実習の成果と評価

○竹ノ内 敏孝<sup>1</sup>, 伊藤 葉子<sup>1</sup>, 田中 克巳<sup>1</sup>, 坂田 穰<sup>2</sup>, 野村 茂<sup>3</sup>, 池田 司<sup>4</sup>, 新井 千恵<sup>5</sup>, 白井 恵美子<sup>6</sup>, 清水 俊一<sup>7</sup>, 伊藤 喬<sup>7</sup>, 小林 靖奈<sup>7</sup>, 山元 俊憲<sup>7</sup>, 木内 祐二<sup>7</sup>, 富田 基郎<sup>7</sup>, 村山 純一郎<sup>1</sup>(<sup>1</sup>昭和大病院薬,<sup>2</sup>昭和大藤が丘病院薬,<sup>3</sup>昭和大豊洲病院薬,<sup>4</sup>昭和大横浜市北部病院薬,<sup>5</sup>昭和大藤が丘リハビリテーション病院薬,<sup>6</sup>昭和大歯科病院薬,<sup>7</sup>昭和大薬)

【目的】本学は平成14年度より薬剤部と薬学部が協力して作成した実習要項を基に、薬学3年の希望者に5日間の病院体験実習を提供している。今回、病院体験実務実習の成果を臨床薬剤学と国家試験の結果を指標として追跡・調査した。

【方法】薬学部3年生一週間病院実習準備委員会を薬学部教員(3名)と薬剤部職員(本学附属8病院薬剤部・薬局より各1名)で構成し、一般目標と到達目標を掲げた薬剤部/薬局3日間、病棟2日間の実習内容とスケジュールを作成した。平成14年度と15年度の薬学3年に夏期特別病院体験実習の希望者を募集した。両年で希望者・非希望者、それぞれ約100名であった。実習成果は実務実習と密接な関連のある薬学専門科目の成績と平成16年度薬剤師国家試験の合格率を指標として評価した。実習カリキュラム作成のコンセプトについても述べる。

【結果】薬学3年専門1科目の期末試験平均点は平成14年度216名全員で61.8, 実習体験者64.3(116名), 非体験者58.8(100名)と15年度61.7(216名), 体験者63.4(102名), 60.7(114名)であった。薬剤師国家試験については第89回の結果、体験者87.16%(95/109), 非体験者69.6%(71/102)であった。

【考察】平成14・15年度により専門科目成績に若干の差が観られるが、病院体験実習体験者が非体験者を上回る。また、第89回国試結果は体験者が非体験者より合格率が高い。本来の評価は卒後の薬剤師業務の質であり、さらなる追跡調査が必要であるが、以上の結果は病棟薬剤管理指導業務を取り込んだ早期病院体験実習が薬学を学ぶ動機と態度の維持・向上に有用であることを示唆した。薬学生が習得すべき薬学教科を理解しモチベーションを維持・向上するには臨床に接することが必須であることから、早期より学年段階的実務体験実習が必須である。